

防災意識を高め、災害に立ち向かう

# 自分の命を守る

先日の九州北部で起こった記録的な豪雨などは、いつどこで起こるかわかりません。災害から自分の命を守るためにはどうすればよいのでしょうか。今回の特集では、日ごろから「田原本町の防災」に積極的に携わっていただいている皆さんから、ご意見をお伺いしました。皆さんも8月27日(日)に平野小学校で開催する「総合防災訓練」に参加して、防災力を高めてみませんか。

## 田原本町の良さ

**三濱さん** 大和盆地の中心に位置し、災害が少ないまちであると思う。近年でも大きな災害は発生していない。町外から来られた人になぜ田原本を選ばれたのかと尋ねたところ、「事件や事故が少ない。スーパーが多く買い物も便利。また、大都市へは1時間程度で行ける。そして、自然豊かな農業のまちである」との意見があった。

**北浦さん** 交通のアクセスがよい。災害が少なく安心なまちであるが、逆にそれが悪いことでもあり、安心しきって生活している。防災課を新設していただいたことはありがたい。防災課を中心に町民が協力してやっていけたらと思う。

**山田さん** 田原本から車で大

阪が1時間、名古屋へは2時間、和歌山市内へも1時間弱、京都へも1時間と交通の便がよくなり、お客さんのところへ行くのが早く商売がしやすい。田原本には観光資源が多い。また土地が平らでいいところだと思う。

**今西さん** 唐古・鍵遺跡などの観光資源が多くある。また、史跡公園や道の駅の整備が進んでおり、これからさらに発展していけるまちになるだろう。

**町長** 災害が少なく平和なまちであり、住みやすい。その良さを更に助長するためにも、防災意識を高めることが大切である。何かが起きたとき田原本では公的機関が何かやってくれるだろうという意識が強く問い合わせが殺到し、その対応に追われて本来なすべき処置が遅れてしまうおそれがある。防災課ができたから

といって自分の命を自分で守る大切さが変化するわけではない。

## 田原本町の課題

**三濱さん** 住民の防災意識が低いと考える。自主防災組織の活動促進、人が集まることでの防災出前講座開催などにより、住民の意識向上に努めてほしい。

**北浦さん** 自分が避難する場所を知らない人も多いと思うので、防災訓練などを繰り返し行うことで避難所の認識もでき、災害に対する心構えができるのではないかと。住民と町の連携も大切だが、他の公的な団体との連携も災害への備えとして必要だと思う。

**山田さん** 現在、商工会青年部の人数は、奈良県内では他の市町村より多いが年齢層が高い。今後、青年部の人数は



# 「田原本町の防災」について 意見交換



町消防団長  
今西和夫さん



自治連合会長  
三濱敦彦さん



町長  
森 章浩



町商工会青年部長  
山田育弘さん



町赤十字奉仕団委員長  
北浦佐多子さん

## 今後のまちづくりについて

減っていくことが予想される。商工会青年部は、災害のときに少しでも役に立てるような活動をしたいと考えており、そんなメンバーが増えてくれたらと思う。そのためにも田原本で商売をされているところに声をかけを行っていくと思う。

**今西さん** 消防団員の高齢化と成り手不足が問題である。団員の意識が高いのはいいことだが、火事の現場で危険な場合もある。実際災害が起これば消防団だけでは対応しきれない。そのとき、住民の力が不可欠で、連携が必要ではないか。

**町長** 災害が起こった時、大規模な災害になれば役場自体の機能が失われる可能性もある。その時は、地域の人々と助け合って、自分たちの命は自分たちで守っていただく必要がある。住民の皆さんの防災意識は地域の格差もあるので、防災出前講座を利用していただいたり、防災訓練や避難訓練に繰り返し参加していただいたりすることも大切である。

**三濱さん** 地域ごとで防災意識を強化しなければいけない。日ごろから災害に対する備えが必要である。

安心・安全に暮らすためには地域の見守りが大切である。村の会合などに参加してもらって、隣近所と信頼関係を築くことが大切である。そして、自治連合会だけでなく、関係機関と連携していくことも大切である。

**北浦さん** 赤十字奉仕団は、子どもへの防災教育や、子どもに教える立場である先生への教育も行っている。防災に関する日常のささいな疑問点は、自治会に話をさせてもらうことで、少しずつ防災意識が変わっていくと思う。

**山田さん** 災害が起こると、みんなが被災者になる。その際、近所の人と助け合うことが大事だが、そのためには近所の人を知っているということが不可欠である。また、全国の商工会青年部同士で普段から防災を通じた連携を高め

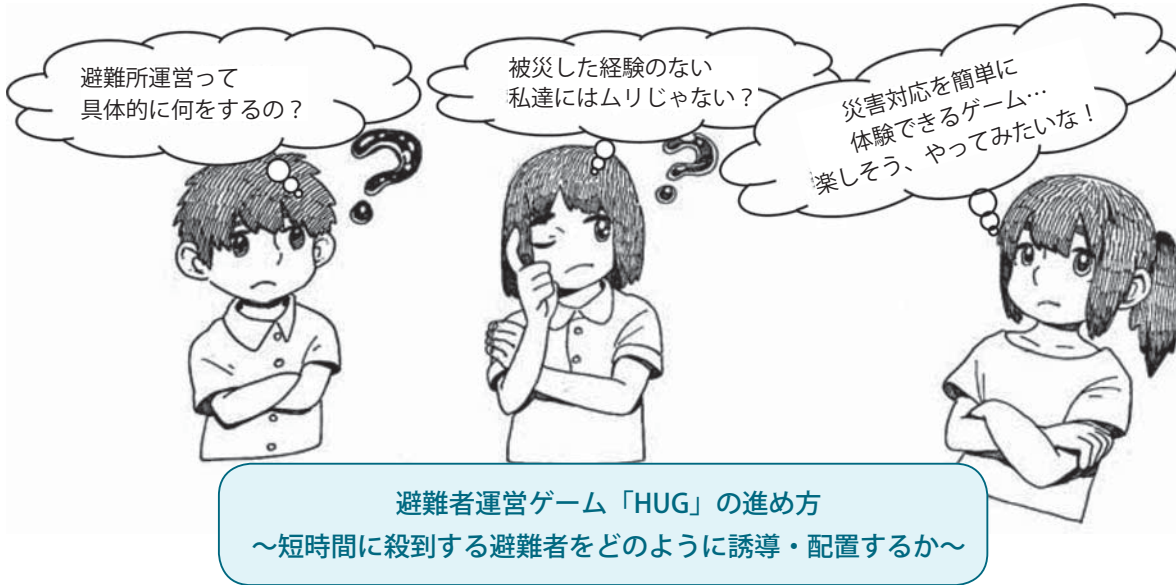
きには連絡網などを利用して、物資の提供も行いたい。防災に強いまちづくりの協力をしていきたい。

**今西さん** 火災、地震、大雨など災害に対する心構え、住民の防災に対する意識、各関係団体における初期体制と連携。これらにより、被害を最小限に食い止めることが大切である。

**町長** 安心・安全で住みやすいという田原本町の良さを更に伸ばすためには、住民の皆さんの防災意識が大切である。今年度の総合防災訓練では、町内一斉に防災無線を通じて地震発生を知らせ、訓練を開始する。会場の平野小学校ではいろいろな体験コーナーを用意している。自分自身で体験し、苦労したことはなかなか忘れないもの。防災訓練に参加していただき、防災意識を高めてもらいたい。

災害に備えて、地域の防災力を高めることが大切であり、それが今後のまちづくりにつながり、地域の力で被害を最小限にできるのではないかと思う。





8月27日「総合防災訓練」の日に

# 避難所運営ゲーム (HUG) に参加しよう！

日本は、世界有数の地震国であり、いつどこで大地震が発生しても不思議ではありません。大地震が発生した場合、家屋の倒壊や火災などにより、被災した多くの人々が避難所での生活を強いられることとなります。避難所の生活は、生活再建の第一歩となる場所であるから、避難者自ら自主的に運営することが原則です。あなたが避難所を運営する立場になったとき、最初の段階で殺到する人々や出来事にどう対応すれば良いのでしょうか。

避難所運営ゲーム (HUG) は、避難所運営を皆で考えるためのひとつのアプローチとして開発された模擬体験ゲームです。プレイヤーは、避難者の年齢や性別、それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図に適切に配置し、避難所で起こるさまざまな出来事に対応します。参加者が意見を出し合い、話し合いをしながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶことができます。

## ① HUGの目的

ゲームは、とある町の避難所 (小学校) が舞台となります。プレイヤーは避難所運営担当者となって、避難所に指定されている体育館のほか、校舎や校庭など、学校の敷地を有効活用しながら、数多くの避難者を適切に配置できるか模擬体験します。



作戦会議をしよう！

## ② ゲームの内容

進行役が避難者の情報が記載されたカードを順番に読み上げながら、プレイヤーに渡します。プレイヤーは、体育館や教室など避難者が生活するスペースに見立てた用紙に、避難者カードを並べていきます。

※ 避難者カード 1 枚の大きさを 1 人分の避難生活空間 (約 3 m<sup>2</sup>) と仮定し、この縮尺に見合うような避難施設の大きさの紙を用意してあります。

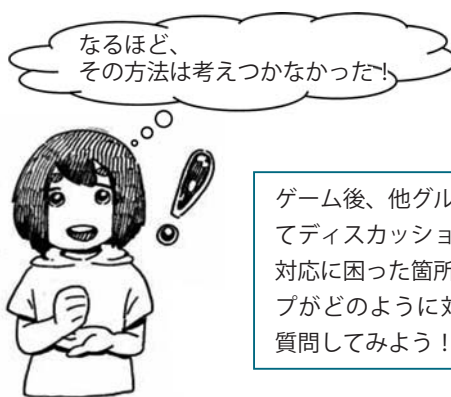
時間経過に従い対応が追いつかなくなります。



### ③ゲームのポイント

避難者カードには、情報として避難者が抱えるさまざまな事情が書かれており、プレイヤーには避難者の事情に応じて適切に配置することが求められます。より実際に近づけるため、進行役は短時間で次々と避難者カードを読み上げ、プレイヤーに余裕を与えないようにします。避難者カード以外にも、避難所で想定される出来事が書かれたイベントカードが混ぜられており、プレイヤーは避難者の配置以外にも、避難所運営のための課題を処理しなければなりません。

ゲーム終了後に、避難者の配置方法やイベントの対処方法などについて話し合いを行い、より良い避難所運営の在り方を検討します。



ゲーム後、他グループを交えてディスカッションをします。対応に困った箇所を他グループがどのように対処したか、質問してみよう！



#### 総合防災訓練で HUG を体験してみませんか

HUG の参加者を募集します。

**参加無料**

定員 40 人（中学生以上／申込順）

申込 8 月 10 日(木)までに防災課（☎ 34-2059）へ。

## 総合防災訓練

### 「自らが何をすべきか」

町民一人ひとりが防災に関する正しい知識を身につけ、日ごろから具体的な「備え」を実践しましょう！

**日時** 8月27日(日) 午前9時～10時45分

※小雨決行。ただし、当日午前7時時点で田原本町に各気象警報、注意報が発令されている場合は中止します。中止決定は午前7時30分以降に防災課（☎ 34-2059）へお問い合わせください。

**場所** 平野小学校運動場・体育館  
平野幼稚園遊戯室

#### 主な訓練内容

##### ○シェイクアウト訓練

地震の際の安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かない」を身につける。



##### ○避難所運営ゲーム (HUG)

避難所で起こるさまざまな出来事はどう対処していくかを模擬体験するゲーム

午前9時、防災無線で町内一斉に地震発生を知らせ、訓練を開始します。各家庭でもシェイクアウト訓練を行ってください。



##### ○放水訓練

消防団・磯城婦人防災クラブ

##### ○訓練体験コーナー

AED・心肺蘇生法体験、応急手当・搬送体験、初期消火訓練体験

##### ○展示コーナー

防災用品・災害非常食、関係機関の車両と記念撮影、過去に起こった災害活動写真



# 出前タウンミーティングを開催

6月17日、西八尾でタウンミーティング(町長意見交換会)を開催しました。参加者からのご意見やご提案の一部を紹介します。

■ 広報課広報係 ☎34・2069



**問** 防災にもう少し力を入れてほしい。今後の方向性は。

**答** 地震や洪水などの災害に備えるため、この4月に防災課を新設した。今まで2年に1回だった防災訓練を今年から1年に1回にし、防災の意識を高めていきたいと考える。

**問** ごみ問題に関して、田原本町がお金を使いすぎているのではないか。

**答** ごみの費用に関しては、御所市、五條市、田原本町が持ち込んだそれぞれのごみの量で、応分の負担をしており、田原本町が余分にお金を出していることはない。

**問** 町長で親しく住民とお話ししていただいたのは初めてだ。どんな住民と接して、町の改革をやっていたか。

**答** 町長意見交換会を全部の地域で行っていいと思う。きつちりと説明をしてやりとりを行うことで町行政にも反映していけるのではないかと

考えている。

**問** 道路づくりの件で、駅前周辺の道路が非常に狭く、対面通行であるのに対面できない。駅周辺を一方通行にできないか。

通学路である八尾池の手前のところの四つ角(加藤不動産のところ)で、八尾池のところ

**答** 今は通学路を優先して道路づくりを行っている。ただ、八尾池のところは、水路が関係している件は、水路が関係していることから、水利組合や県との調整が必要になる可能性がある。問題の場所が池なので、そのあたりも含めて調査する。

道路づくりに関して、現在は、田原本幼稚園の前の少し狭くなる道から五光温泉の横を抜ける道を買収して拡張を進めているところである。

**問** 田原本の観光資源は唐古・鍵遺跡だと思ふ。町をPRして全国から来てもらう

観光地にしてもらいたい。あと、道の駅は成功するの。

**答** 田原本町だけでなく、磯城郡と橿原市、高取町、明日香村と市町村連携をし、広域的な観光ということで手を組もう、PRしようとして動き始めている。

道の駅の予定者は奈良交通(株)で、宇陀でも実績がある。現在、奈良から飛鳥に行く車の大半が、京奈和道を通って田原本を素通りしているようだ。そこで、この田原本町の道の駅で足をとめてもらいたいという思いがある。そのため、女性用のトイレを増やした。また、パン屋なども入る予定なので、少し休憩所してもらい、農産物も買いつけながらそのまま南に行くというルールを確立して、休憩所にしてもらおうと考えている。

その他のご意見やご提案については、町ホームページをご覧ください。

原付  
限定



# 田原本町オリジナル ナンバープレートの デザインが決定しました

田原本町のイメージを町内外にPRするため、原動機付自転車のオリジナルナンバープレートを作成することとし、そのデザインについては、包括的連携協定を結んでいる畿央大学の学生さんから募集しました。応募のあった作品について、選考委員により3点を選定し、人気投票により最優秀作品1点と優秀作品2点を決定しました。

このうち最優秀に選ばれたデザインを田原本町オリジナルナンバープレートに採用し、9月1日(金)から交付します。

☎ 税務課課税第一係 ☎ 34-2112

## 最優秀デザイン



▲楠田さおりさん (畿央大学)

## 優秀デザイン



▲長井詢さん (畿央大学)



▲西森裕十さん (畿央大学)

## オリジナルナンバープレートの交付

交付開始日 **9月1日**(金)

※午前8時30分から受付順に交付します。

交付場所 税務課課税第一係

### 交付対象車種

- 原付第一種 (50cc 以下)
- 原付第二種乙 (90cc 以下)
- 原付第二種甲 (125cc 以下)

※従来のナンバープレートも選択可能。

※従来のナンバープレートからの交換手数料 200 円。